

カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除適期について

カンシャコバネナガカメムシは幼虫成虫ともに葉鞘や未展開葉部に潜み集団で吸汁加害する。成虫には翅型の多型があり、長翅型は夏から秋にかけて移動分散する。1 茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場または、一斉防除を行う地域は適期を失しないよう注意する

1 発生状況および防除適期予想日

- (1) 沖縄本島中南部における3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.6 頭(前年 0.05 頭、
 平年 0.8 頭)と平年並であった。
- (2) 宮古島における3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.1 頭未満(前年 0.7 頭、平年
 30.6 頭)と平年よりやや少なかった。
- (3) 石垣島における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は 2.5 頭(前年 1.0 頭、平年 27.4
 頭)と平年よりやや少なかった。
- (4) 防除適期予想日 (3月22日現在)

地 域	防除適期	2.5 齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月16日 ~ 4月29日	4月24日	4月22日	2日遅い
南・北大東島	4月12日 ~ 4月25日	4月19日	4月18日	1日遅い
宮古島	4月8日 ~ 4月21日	4月15日	4月13日	2日遅い
石垣島及び周辺離島	4月3日 ~ 4月16日	4月10日	4月7日	3日遅い
与那国島	4月3日 ~ 4月16日	4月14日	4月10日	4日遅い

※3月23日発表の気温予測資料を利用。2/1~3/23は観測値、3/24~4/6は予測値(1週目と2週目の予測)、4/7からは平年値を使用。

2 生態

- (1) 幼虫成虫ともに葉鞘や鞘頭部に潜み集団で吸汁加害する。
- (2) 年2~3回発生し、成虫ないし卵で越冬する。
- (3) 成虫には翅の長い長翅型と短い短翅型がある。長翅型は高温・高密度で出現し、移動分散を行う。
- (4) 前年の秋、冬に産み付けられた卵は3~4月にふ化し、第1世代目となる。
- (5) おおむね4~6月が第1世代、7~8月が第2世代、9~10月に第3世代が発生する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) この時期に茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場は防除をすることが望ましい。
- (2) 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

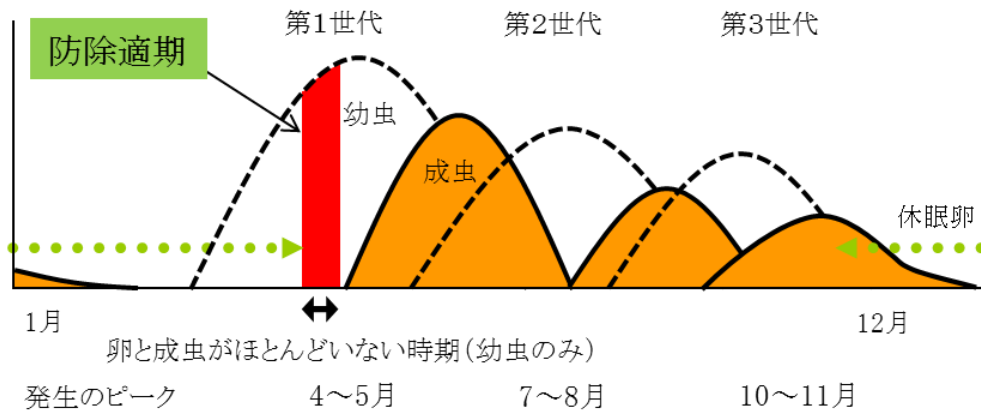
TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

【参考資料】

1 防除適期とは

カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー、チンチバック)は長年にわたり一斉防除が行われてきています。本種の防除は、農薬の効きにくい卵や成虫がいない時期が最適です。卵は2月下旬頃からふ化し始め、4月中旬から下旬にほとんどふ化し終わり、その数週間は成虫もほとんどおらず、この時期はさとうきびの草丈も低いため農薬散布するのに適しています。

下の図の赤い部分が最も薬剤散布に適した時期です。この時期は卵がすべてふ化するであろう時期を予測することにより算出することができます。2月1日を起点として、日平均気温が13℃を上回った温度(たとえば2月1日が16.4℃だった場合3.4℃)を累積し、480℃を超えた日が防除に最適の日となります。その前後1週間を防除適期として示しています。また、この予想日はほ場に発生している幼虫の平均齢期が2.5齢にあたるため予報資料では「2.5 齢期予想日」という表現になっています。



2 要防除密度

農作物に害虫が発生したとき、その発生量を確認しないまま農薬散布を行うと、防除効果による増収分では農薬購入及び散布にかかる経費を補えない場合があります。

カンシャコバネナガカメムシでは、発生量が一茎当たり9頭以下ではさとうきびに減収は見られず、防除を必要としないことが知られています。つまり、この状態で防除を行えば、農薬購入及び散布にかかる経費が無駄になります。それではいったい一茎当たり何頭のときに防除効果と経費のバランスがとれるのでしょうか(これを要防除水準といいます)。調査研究の結果、一茎当たり20頭以上のときに防除効果が経費を上回ることが分かっていますので、防除適期に発生量を確認の上、防除の可否の判断を行ってください。

